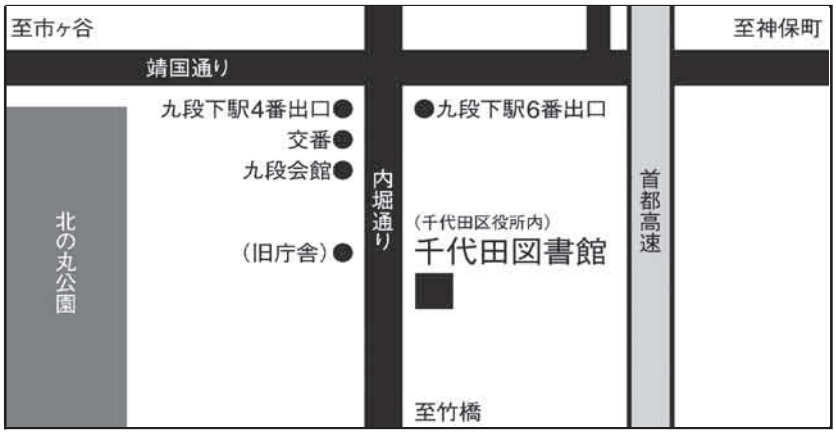
展示関連イベント

ミャンマーはどうなるのか――日本との関係から考える

1988年以来、長い間軍事独裁政治を展開してきたミャンマー（ビルマ）が、ここに来て政治的に急展開を見せ、国際的な注目を浴びています。
アウンサンスーチー氏の議員としての活動開始は、何を意味するのでしょうか。
本当にミャンマーは変わるのでしょうか。日本は今後どうするのが望ましいのでしょうか。
根本さんには、アウンサンスーチー氏の思想や、父アウンサン将軍やバモオ博士らビルマ独立の闘志たちと当時それに関わった日本との関係史を踏まえ、ミャンマーの現在の状況と今後の日本との関係をお聞きします。吉田さんには、少数民族の豊かな暮らしぶりと、表面的に民主化をうたうミャンマーで、現在まで闘わざるを得ない彼ら少数民族の実情を伝えていただきます。

千代田区立千代田図書館

東京都千代田区九段南1-2-1
千代田区役所本庁舎内
電話:03-5211-4289・4290
展示期間中の開館時間:
月～金＝10:00～22:00
土＝10:00～19:00
日・祝＝10:00～17:00
展示期間中の休館日:9月23日（日）



東京メトロ東西線・半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅下車、4番または6番出口から徒歩5分

＜展示・イベント関連書籍＞

ゾウと巡る季節
ミャンマーの森に息づく巨獣と人びとの営み

大西信吾　写真・文　定価: 3800 + 税

東南アジアの最奥部・ミャンマーの山深くに、ゾウが木材を運搬し人と共に働き生きる、大変貴重な姿が今も残存する。現地と最も深く関わり通い続けた日本人による写真集。喜び、悲しみ、怒る…愛情豊かな知られざるゾウの姿。

ダイドー・ブガ
北ビルマ、カチン州の天地人原景

吉田敏浩　写真・文　定価: 2300 + 税

広大な森のなかで真に豊かに生きられる、人間の原点ともいえる場がここにある。国家に管理されず、自給自足的に暮らす人びとが、なぜ、闘わざるを得ないのか。激動するビルマ（ミャンマー）で、生き抜こうとする少数民族の写真集。

15歳からの「伝記で知るアジアの近現代史」シリーズ 2

ビルマ独立への道 バモオ博士とアウンサン将軍

根本敬　著　定価: 1800 + 税

アウンサンスーチーを生んだビルマ（ミャンマー）と日本との深い関係を、その父で暗殺された指導者と不遇の知識人政治家の目線を通して探る。
彼らが格闘した現実の日本とは。軍政から民政へ変わっても決して楽観は許されないビルマの現状、アウンサンスーチーの思想まで。